

解答	配点
問 1 (ア) No. 1 1 No. 2 4 No. 3 2 (イ) No. 1 1 No. 2 4 (ウ) No. 1 6 No. 2 2	問 1 各 3 点 × 7 = 21 点
問 2 (ア) 3 (イ) 2 (ウ) 4	問 2 各 2 点 × 3 = 6 点
問 3 (ア) 3 (イ) 2 (ウ) 1 (エ) 2	問 3 各 3 点 × 4 = 12 点
問 4 (ア) 6, 5 (イ) 2, 3 (ウ) 6, 1 (エ) 4, 3	問 4 各 4 点 × 4 = 16 点
問 5 〔例〕 How many books did you buy	問 5 5 点
問 6 (ア) 2 (イ) 1 (ウ) 4	問 6 各 5 点 × 3 = 15 点
問 7 (ア) 3 (イ) 4	問 7 各 5 点 × 2 = 10 点
問 8 (ア) 5 (イ) 3 (ウ) 4	問 8 各 5 点 × 3 = 15 点

〔解説〕

- 問 1 (ア) No. 1 脚をけがしたジュンコに、何かできることはあるかたずねている。「ありがとう、トビー。私のかばんを持ってくれますか」が適切。
No. 2 「そこ(=イギリス)へ行ってそれ(=Tシャツ)を買ったのですか」→「いいえ、これは2年前にウェブサイトで買いました」が適切。
No. 3 「日曜日に私といっしょにそこ(=レストラン)へ行きたいですか」→「はい、行きたいです。何時に待ち合わせましょうか」が適切。
(イ) No. 1 ユウタがシェリーに「その(=誕生日パーティーが始まる午前11時の)前に兄[弟]のタカヒロといっしょに買い物に行ってほしいです」と頼んでいる。「彼女は午前中にユウタの兄[弟]と買い物に行くでしょう」が適切。
No. 2 「いつも朝に彼(=犬)とその公園(=ヤマテ公園)へ行くのですか」とたずねるユウタに、「いいえ、ふつうは夕方にそこへ行きます」と答えている。「シェリーはふつう夕方に犬とヤマテ公園に行きます」が適切。
(ウ) No. 1 ①「私のおじは農家で、祖母といっしょに農園でリンゴを育てています」 ②「また夜にはたくさん美しい星を見ることができます」 ③「…そこ(=青森)を訪れて、そこでの時間を楽しんでほしいです」
No. 2 ④ I also とあることから、ジェイコブにはミクと共通することがあるとわかる。ミクは先月この町に来たので、「ほくもちょうど1か月前に神奈川に来ました」とすると意味が通る。 ⑤「今度それらについてほくにもっと教えてください」直後の them は、前の文の the festivals in Aomori を指す。
- 問 2 (ア)「約3か月前にその山についての記事を新聞で読みました」 (イ)「…太陽が昇り始めたときに」直前で「早く起きて」と言っていることから考える。(ウ)「いつかそれを自分自身の目で見てみたいです」直前の文で「以前テレビでそれ(=富士山の景色)を見たことがあります」と言っていることから考える。
- 問 3 (ア)「今日は、私のお気に入りの本を紹介させてください」〈let+人+動詞の原形〜〉「(人など)に〜させる、〜することを許す」 (イ)「これは、とても速く作動するコンピュータです」主格の関係代名詞。先行詞が「もの」なので that が適切。(ウ)「もしお金をたくさん持っていたら、世界中を旅行できるのに」〈If+主語+(助)動詞の過去形〜, 主語+would[could]+動詞の原形....〉「もし〜なら…する[できる]のに」 (エ)「ステージで歌っている少女たちは私の友達です」現在分詞の形容詞的用法。singing on the stage が The girls を後ろから修飾する。
- 問 4 (ア) Can you teach me how to make it? 「私にその作り方を教えてくださいませんか」〈疑問詞+to+動詞の原形〜〉が teach+人+もの の〈もの〉になっている。how to ~「どのように〜するか、〜の仕方」 (イ) I know why she is sad. 「私は彼女がなぜ悲しんでいるのか知っています」 why を使った間接疑問文。〈疑問詞+主語+動詞〜〉が know の目的語。(ウ) My brother and I help her prepare dinner on Wednesdays and Fridays. 「兄[弟]と私は水曜日に金曜日に彼女が夕食を準備するのを手伝います」〈help+人+動詞の原形〜〉「(人)が〜するのを手伝う」「〜曜日に」は on ~。(エ) I wish I were younger than seven years old. 「私が7歳未満だったらいいのに」〈I wish+主語+(助)動詞の過去形〜〉で「〜ならいいのに」と現在の事実と反する願望を表す。be 動詞はふつう、主語に関係なく were を使う。〈比較級+than ~〉「〜より…」

採点基準

- 問 4 各完答。
問 5 ・books と buy を含んでいないものは不可。
・語数が合っていないものは不可。
・1文となるように書いていないものは不可。
・文法・表記上の軽微な誤りは減点。

問5 ジョシュはCで「4冊です」と答え、買った本を見せている。「今日は何冊の本を買いましたか」と数をたずねる文にする。

問6 (ア)・(イ) 【全訳】 参照。(ウ) b「プラントベースミートはふつうの肉より少し高いですが、人々にとってよい点がいくつかあります」第3段落3～5行目と第5段落1～2行目参照。d「グラフは、豚肉の生産には、とり肉の生産よりも多くの飼料作物が必要であることを示しています」本文中のグラフ参照。

【全訳】

こんにちは、みなさん。ぼくはスグルです。最近、ぼくは食べ物についておもしろいことをいくつか学びました。今日は、それをみなさんと共有したいと思います。

数週間前、母が家族の夕食にハンバーグを作ってくれました。ぼくは母のハンバーグを食べながら、「お母さん、このハンバーグは何か違った感じがするけど、とてもおいしいよ」と言いました。すると母は「あら、気に入った？ よかったわ。実はそのハンバーグにはプラントベースミートを使ったのよ。その肉は植物でできているの」と言いました。それを聞いて驚きました。ぼくはいくつかの種類の肉が植物から作られていることを知っていましたが、植物から作られた肉がそんなにおいしいとは知りませんでした。そのハンバーグは、牛肉や豚肉から作られたハンバーグと同じくらいおいしかったです。

その後、ぼくは食べ物の科学技術に興味を持ったので、それについて勉強し始めました。人々は科学技術を向上させて、新しい種類の食べ物を開発してきています。プラントベースミートはこれのよい例です。その価格は、ふつうの肉の価格より少し高いですが、今世界中で人気があります。それは脂肪がより少ないので、牛肉や豚肉より私たちの健康によいと言う人もいます。また、信条のために(ア)-A動物の肉を食べない人もいますが、その人たちはプラントベースミートは食べられるのです。

ぼくたちは、たくさんの店でたくさんの種類のプラントベースミートを買うことができます。いくつかのレストランでは実際にそれらを食べてみるができます。ぼくはインターネットですてきに見えるレストランを見つけました。ぼくたちはそこでさまざまな種類のプラントベースミートを食べることができます。ぼくは来週、家族といっしょにそこを訪れるつもりです。多くの種類のプラントベースミートは品質がよいです。しかし、もしあなたが動物の肉をまったく食べないのなら、(ア)-Cプラントベースミートの中には動物の肉に由来する脂肪をいくらか含んでいるものがあるということを覚えておかなければなりません。それは肉をよりおいしくするために使われるのです。

プラントベースミートには、ぼくたちにとってもう1つのよい点があります。それは、ぼくたちが食料不足の問題を一部解決するのに役に立ちます。日本の人口は少なくなってきましたが、世界の人口は今なお増え続けています。人々は生きるの

にタンパク質が必要で、肉はたくさんのタンパク質をぼくたちに与えてくれます。しかし、動物の肉はたくさんの飼料作物を必要とします。このグラフを見てください。それは人々が肉を生産するのに必要とする飼料作物の量を示しています。

グラフ

人々が1キログラムの肉を生産するのに必要とする飼料作物の量

・牛肉 ・豚肉 ・とり肉

ぼくたちは、牛肉を生産するために、とてもたくさんの飼料作物を必要とし、またその飼料作物を栽培するためにたくさんの土地と水が必要とします。しかし、地球上には十分な土地と水がなく、とてもたくさんの飼料作物を栽培することは環境に害を与えるのです。もし人口が増え続けるなら、ぼくたちは将来、全人口に十分な肉を生産することができないでしょう。そのとき、プラントベースミートは大いにぼくたちを助けてくれるかもしれません。それのおかげで、ぼくたちは植物からより直接的にタンパク質を手に入れることができるのです。

昆虫食もまた、ぼくたちを助けてくれるかもしれません。(イ)昆虫は、ほかの多くの動物より必要とする飼料作物の量が少ないのです。1キログラムの昆虫食を生産するのに2キログラムほどの飼料作物しか必要としないと言う人もいます。昆虫食にはまた、たくさんのタンパク質やほかの栄養素があります。ぼくは最初、人が昆虫を食べることが信じられませんでした。しかし、(ア)-Bかつて日本のより多くの人がそれらを食べていました。実際、長野にいるぼくの祖父は今もときどき食べています。しかし、それでもみなさんは見た目が好きではないので、昆虫食を食べてみたくないと思うかもしれません。ぼくもみなさんと同じ意見で、それを食べてみたことはありません。でも心配ありません。人々は昆虫食を改良し、見た目の問題を解決してきています。例えば、現在ぼくたちは店で粉末状の昆虫食を買うことができます。それは、スープやその他の料理に使うことができます。そのようにして、昆虫の見た目が好きではない人がより簡単にその栄養素をとることができるのです。

食べ物の科学技術の例はほかにたくさんあります。この科学技術が、たくさんの食べ物の問題についてぼくたちを助けてくれるとよいと思います。

問7 (ア) マイが参加する体験授業は、理科[科学](50分)、体育(50分)、英語(90分)。ピアノのレッスンがあるため、部活動には参加しない。よって、体験授業に参加するのは190分。(イ) ロブの父親は、来週は水曜日が1日中家におり、金曜日は正午から家で仕事をする予定。水曜日は国民の休日なので配達の手配はできないため、荷物を受け取れるのは、金曜日の午前8時から10時。

【(ア)全訳】

ポールとマイは中学生です。彼らは4月にサクラ高校に入学したいと思っています。彼らはサクラ高校で開催される体験授業について話しています。

ポール：やあ、マイ。サクラ高校の体験授業について調べた？ きみは参加する？

マイ：こんにちは、ポール。もちろん参加するわ。私はプロگرامmingに興味があるから、2時間目の授業に参加するわ。あなたは？

ポール：ええと、ぼくはこの授業に参加したいんだけど、だれかといっしょに参加しないといけないんだ。いっしょに来てくれる？

マイ：もちろん！ 動きやすい服を着るわ。

ポール：どうもありがとう！

マイ：楽しみにしているね。それから、私は英語を話すのが苦手だから、この授業にも参加したいな。外国の甘い菓子にも興味があるの。

ポール：ぼくもそれに参加するよ。

マイ：昼食は？ 食堂で昼食を食べない？ 試してみたいな！ ポール：いい考えだね。ところで、ぼくは演劇部かバスケットボール部の部員になりたいと思っているから、それらの活動を見たいんだ。

マイ：わかった。私は土曜日の夕方はピアノのレッスンがあるから、それらは見られないの。

ポール：わかった。またそのときにね！

【(イ)全訳】

ロブは大学生です。彼は昨日、オンラインで本を数冊注文しました。宅配会社のウェブサイトを見ながら、父親に話しかけています。

ロブ：やあ、お父さん。来週荷物が届く予定なんだけど、ぼくはとても忙しくて日中は留守にしているんだ。配達員から受け取ってくれないかな？

父：いいよ。それは何曜日に届く予定かい？

ロブ：これからそれを決めるよ。うーん…宅配会社のウェブサイトを見ると、荷物が多くて配達時間が限られているみたいだ。お父さんはいつ家にいる？

父：これが私の来週の予定だ。月曜日と火曜日は会社に行くから、それぞれの始業時刻の1時間前に家を出るよ。火曜日は6時30分ごろに帰るよ。水曜日と木曜日は1日中家にいるよ。

ロブ：木曜日は病院に行かなくちゃいけないよね？

父：ああ、忘れていたよ。そうだな、1日中かかるだろうな。

金曜日は家で仕事をするんだ。正午に仕事を開始する予定だよ。

ロブ：土曜日はどう？

父：野球の試合があるから、その日は朝早く出ないといけないんだ。夜7時ごろに帰るよ。

ロブ：わかった。配達時間を調整しておくよ。

問8 (ア) ① 連絡なしに遅れてくる友達をいらせずに待てる時間について、和田先生の3つ目の発言から「15分」と答えた人が最も多く、ケントの1つ目の発言から「1時間」と答えた人は7%であったことがわかる。これらを示すグラフはC。 ② 和田先生の6つ目の発言から、50%より多くの人が待ち時間にスマートフォンを使うこと、アスカの4つ目の発言から、約20%の生徒がコーヒー店で飲み物を飲んで待つと答えたことがわかる。これらを示すグラフはX。よって正解は5。(イ) 【全訳】 参照。(ウ) b「スージーは、スマートフォンがあれば30分間は簡単に友達を待つことができると考えています」 スージーの3つ目の発言参照。 e「携帯電話を持っている生徒がほとんどいなかったころは、友達にメッセージを書くために、待ち合わせ場所にある黒板を使うこともありまし

【全訳】

アスカは高校生で、ケントとスージーは外国から来た学生です。彼女たちは放課後教室で話をしています。そのとき、彼女たちの先生の和田先生が彼女たちに話しかけます。
和田先生：こんにちは、みんな。何を話しているのかな？
アスカ：こんにちは、和田先生。私たちは来週の英語の授業でのプレゼンテーションについて話し合っているところです。
私たちは「待ち時間」について話すつもりです。
和田先生：ああ、それはおもしろそうだね。それについてもっと教えてください。
アスカ：はい。私たちは自分のクラスの生徒たち全員に、待ち時間についていくつか質問をしました。彼らの回答からいくつかのグラフを作りました。例えば、グラフ1は、彼らがどれくらい長く、いらせずに友達を待てるのかを示しています。

グラフ1

友達が遅れていて連絡してこないとき、あなたはどれくらい長く、いらせずに友達を待つことができますか。
・5分 ・15分 ・30分 ・1時間 ・1時間以上

和田先生：なるほど。「15分」が一番人気の回答だね。
アスカ：はい。もし私が待っている友達があらかじめ連絡してきて、遅れることを伝えてくれたら、私はもっと長く待てます。でも、何も伝えてくれなかったら、15分が私の限界です。
ケント：ぼくはアスカより忍耐強いです。ぼくは、たとえ友達がまったく連絡してこなくても1時間待つことができます。でも、グラフ1では、ほんの7%の生徒だけがぼくと同じ意見でした。
和田先生：そうすると、ケント、きみはもしアスカと会う予定があって、きみが遅れるとしたら、アスカに連絡するかい？
ケント：ええと、しないと思います…。
スージー：まあ、ケント！ それはひどいわ。
ケント：うーん。わかったよ。するよ。
和田先生：それぞれの人は同じ状況において違った気持ちになるから、相手の気持ちについてよく考えることが重要だよ。それで、グラフ2は何についてかな？
スージー：それは、生徒たちが待っている間に何をするかを示しています。

グラフ2

もし30分間外で友達を待たなければならないとしたら、あなたは何をしますか。
・待ち合わせ場所で自分のスマートフォンを使う
・コーヒー店で飲み物を飲む ・本を読む
・いくつかの店を訪れる ・その他 ・何もしない

和田先生：わあ。多くの生徒がスマートフォンを使うんだね。50%より多い！
スージー：ええ。スマートフォンでニュースを見たり、ゲームをしたり、音楽を聞いたりできるので、それは便利です。それが1台あれば、私には30分間待つことは簡単です。
アスカ：私はあまりに長い間通りに立っていると疲れるので、コーヒー店に行って、そこで飲み物を飲みたいと思います。グラフ2は、約20%の生徒がこの回答をしたことを示しています。和田先生はお友達を待っている間、何をしますか？
和田先生：私もちょうどきみたちと同じだよ。たぶんコーヒー店で飲み物を飲むかスマートフォンを使うよ。でも、私が高校生だった30年よりも前は、ほとんどの生徒は携帯電話を持っていなかったんだ。もちろん、私も持っていなかった。だから、選択肢は多くなかったね。
スージー：どんな選択肢があったんですか？
和田先生：ええと、たぶん、ただあちこち歩いたり、おもしろ

そうな店に入ったりするだけだったよ。それはグラフ2では人気の回答ではないね。

ケント：ぼくはあちこち歩くのが好きです。ときどき歩いて、何かおもしろいものを見つけたら、スマートフォンで写真を撮って楽しみます。

和田先生：うーん、スマートフォンは本当にきみたちみんなにとって必要な機器なんだね。それはそうと、私たちは携帯電話やスマートフォンを持っていなかったから、外で人に会うことは、今より少し難しかったよ。

アスカ：スマートフォンなしで、どうやって外で人と会っていたんですか。想像できません。

和田先生：友達と私は待ち合わせ場所と時間についてあらかじめよく話しておかなければならなかったし、正しい場所に時間より前に行くようにしたよ。

アスカ：待ち合わせの直前に何か起こって、予定を変えなければならぬときはどうしたんですか？

和田先生：お互いの家に電話をしたよ。でも、私たちが家にいないときには、お互いに連絡を取ることはできなかったんだ。

アスカ：信じられません！ もし待ち合わせ場所に行く途中で問題が起きたら、私はスマートフォンでメッセージを送って友達に連絡を取ります。先生は、遅れているときに友達に連絡をしなかったということですか。お友達は先生に怒りましたか。

和田先生：いいや。私たちはみな、今より忍耐強かったんだと思うよ。それに、電車の駅のような人気の待ち合わせ場所には黒板があつてね。友達と会う前に予定を変えなければならぬときには、その黒板にお互いに向けてメッセージを書いたんだ。例えば、「別の用事ができちゃったから、今日はきみに会えないよ。ごめん」とか「どうしてこんなに遅いの？ コンサートがもう始まっちゃう。きみなしで行くね」のようにね。

スージー：おもしろそうです。

和田先生：そうだね。だから、外で友達と会うことは(イ)簡単ではなかったけれど、不可能ではなかったんだ。ああ、今思い出した。もう1つおもしろい話があるよ。

スージー：何ですか。

和田先生：高校生のころ、ある日、私は東京の大きな駅に行ったんだ。友達を待つために駅の改札口の1つを出たら、ほかの高校の生徒のグループを見かけた。それは大きなグループで、みな制服を着ていた。それから、私は自分が友達に会うのに間違った改札口にいることに気づき、駅の別の改札口に移したんだ。すると、そこに1人の女の子を見つけたんだ。彼女はもう一方の改札のそばにいた生徒たちが着ていたのと同じ制服を着ていた。彼女は1人で心配そうだった…。

ケント：きっと彼女は間違った待ち合わせ場所にいたんですね。

和田先生：私も同じことを思って、彼女に話しかけたんだ。私の推測は正しいとわかったよ。それから、彼女を正しい待ち合わせ場所に連れていってあげたんだ。

スージー：ああ、よかった。先生はとても親切でしたね。

和田先生：ええと、それはわからないけれど。でも、とにかく、彼女は友達や先生に会えてとても喜んでいたね。

アスカ：それはすてきなお話です。

和田先生：実は、それで話は終わりでないんだ。

ケント：ええ、次に何があったんですか。

和田先生：その女の子と私はそのとき友達になってね、そして…彼女は今、私の妻なんだよ。

スージー：なんてすばらしい！

和田先生：ええと、それは私たちが携帯電話を持っていなかったころの古い話だよ。

問題(ア) No. 1

Toby: What's the matter, Junko? Did you get injured?

Junko: Hi, Toby. Yes, I injured my leg yesterday. I can't practice basketball for two weeks.

Toby: I'm sorry to hear that. Is there anything that I can do for you?

Junko: (チャイム)

No. 2

Toby: How cute! I like your T-shirt, Junko.

Junko: Thank you, Toby. I bought it two years ago. It is made in the U.K.

Toby: In the U.K.? Did you go there and buy it?

Junko: (チャイム)

No. 3

Toby: Junko, do you know that a new restaurant will open near here?

Junko: I didn't know that. When will the restaurant open?

Toby: This weekend. Do you want to go there with me on Sunday?

Junko: (チャイム)

問題(イ) No. 1

Yuta: Sherry, my family is going to have my sister's birthday party next Saturday.

Sherry: Wow. That's great. How many people will come to the party?

Yuta: About fifteen people. If you have time on that day, can you help me?

Sherry: Yes, of course, Yuta. What can I do?

Yuta: The party will start at 11 a.m. Before that, I want you to go shopping with my brother Takahiro. I will clean my house then.

Sherry: Sure.

No. 2

Yuta: Good morning, Sherry. Where are you going?

Sherry: Good morning, Yuta. I'm going to Yamate Park with my dog. He is Gonta.

Yuta: Oh, he's so cute!

Sherry: Thank you, Yuta. My family and I call him Gon.

Yuta: I see. Do you always go to the park with him in the morning?

Sherry: No, I usually go there in the evening, but today I have to do my homework at night. So I'm going now.

問題(ウ)

Hello, everyone. I'm Okada Miku. I'm from Aomori. I moved to this city last month. Today, I'll talk about Aomori.

Aomori is famous for its apples. You may like them. My uncle is a farmer and grows apples with my grandmother on his farm. I love his apples, so I ate them every day when I was in Aomori.

There are a lot of festivals in Aomori. For example, the Nebuta Festival. It's very famous and many foreign people come to Aomori to see it. I also like it very much.

The water and air are clean there. Also, we can see a lot of beautiful stars at night. My old town doesn't have many shops or tall buildings like this city, but it has many good points. People in Aomori are kind. They always make me happy.

For these reasons, I like Aomori very much. If you have never been to Aomori, I want you to visit it and enjoy your time there. Also, I want to know about Kanagawa, so please tell me many things about it. Thank you for listening.